



環境活動レポート

平成29年度

〈対象期間:平成29年4月～平成30年3月〉

黒崎白土工業株式会社

平成30年6月11日

黒崎白土工業株式会社
環境活動レポート 平成29年度

当社では、平成20年12月に環境システムを構築して、環境保全活動をスタートしました。本レポートで活動を紹介するのは10回目の発行となります。



《表紙写真》

- ・工場付近に現れた希望の虹
- ・撮影 小戸工場 吉田 睦

■ 目次

	page
1. 組織の概要	2
2. 環境方針	3
3. 対象範囲等	4
4. 環境目標及びその実績	5
目標	5
実績	6
5. 環境活動計画と取り組み結果の評価、 次年度の取り組み内容	9
6. 環境関連法規等の遵守状況の確認・評価 並びに違反、訴訟等の有無	10
7. 環境活動の紹介	11
8. 代表者による全体評価と見直しの結果	14

1. 組織の概要

■ 事業所名及び代表者氏名

黒崎白土工業株式会社

代表取締役社長 黒崎 英和

■ 事業活動の内容

- ・ 法人設立年月日 昭和32年7月30日
- ・ 資本金 10,000千円
- ・ 事業内容 ベントナイト、酸性白土、粘土鉱物を原料とする吸着材などの製造・販売

■ 所在地

- ・ 本社 〒957-0052 新潟県新発田市大手町1-14-15
TEL : 0254-22-1170
- ・ 小戸工場 〒957-0345 新潟県新発田市小戸2331
TEL : 0254-28-5930

■ 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

環境管理責任者 取締役 小戸工場長 渡邊義明

担当者連絡先 小戸工場 総務課長 山坂 修 TEL : 0254-28-5930
Eメール : o-yamasaka@kurosaki-hakudo.jp

■ 事業の規模等

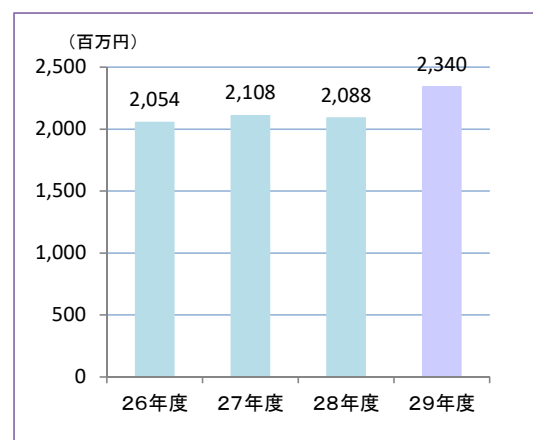
- ・ 従業員数 83名
(平成30年4月末現在)

・ 床面積合計(m²)

	26年度	27年度	28年度	29年度
合計	6,069.7	6,069.7	6,600.8	6,952.2
(内訳)				
工場製造部門	5,090.1	5,090.1	5,621.2	5,972.6
工場補助管理部門	822.8	822.8	822.8	822.8
本社部門	156.8	156.8	156.8	156.8

※29年度の工場製造部門床面積の増加は、製品倉庫、
資材倉庫の増築による増加となります。

・ 売上高



■ 事業年度

4月～3月

2. 環境方針

環境方針

—基本理念—

当社は創業以来、粘土鉱物資源の恵みを受けて、特長ある無機化学製品の提供をめざしてきました。これまで資源と共に歩んだ私たちは、地球環境の課題を認識して、いま求められている環境への負荷低減に継続的に取り組み、環境との調和を図り積極的な環境保全に努めます。

さらに、「安全は何よりも優先する」「資源は有限である」「人に迷惑をかけない」を以って、安全操業・資源活用・責任行動を基に、企業としての社会的責任を果たし、無機化学製品を通じて豊かな社会づくりに貢献していきます。

—行動指針—

当社は基本理念に基づいて行動指針を定め、事業活動と地球環境の調和を目指し、環境負荷の低減のため継続的な環境保全活動を行います。

- (1) 事業活動の環境負荷低減活動の重点実施事項を下記のとおり設定する。
 - ① 省資源・省エネルギーを実践し、電気・化石燃料・水・紙の消費量減による二酸化炭素排出量の削減に努める。
 - ② リサイクルやグリーン購入の推進、廃棄物の排出量の削減に努める。
 - ③ 環境に配慮した製品の開発に取り組む。
 - ④ 化学物質の適正管理および管理体制の徹底に努める。
 - ⑤ 生物多様性保全活動の推進を図り環境保全に努める。
- (2) 環境関連法規制・自主的な管理基準および当社が約束した取り決めに遵守すると共に、環境汚染の予防を推進し、地域の環境保全に努める。
- (3) 環境経営システムを構築・運用して、全従業員参加で環境負荷の低減を継続的に取り組む。
- (4) 全従業員に環境方針・環境保全状況を含む環境教育を行い、環境意識の向上に努める。
- (5) 環境への取り組みを環境活動レポートにより全従業員および外部に公表し、環境コミュニケーションに努める。

平成20年11月25日制定
平成22年10月12日改訂
平成24年10月22日改訂
平成25年 6月24日改訂

黒崎白土工業株式会社
代表取締役社長 黒崎 英和

3. 対象範囲等

■ 対象とする組織

実施の役割分担

実施体制は、各自の役割、責任及び権限を以下のように定めている。

代表者（社長）

- ① EA21の最高責任者
- ② 環境方針の策定
- ③ 経営資源（人・設備・費用）の準備
- ④ 環境管理責任者・内部監査員の任命
- ⑤ 代表者による評価と見直し
- ⑥ 以下の承認
 - ・環境目標及び環境活動計画
 - ・環境への負荷及び環境への取組の自己チェック
 - ・環境関連法規の点検
 - ・問題点の是正処置及び予防処置
 - ・環境活動レポート
 - ・苦情受付処理

環境管理責任者（小戸工場長）

- ① 環境経営システムを構築し、維持する
- ② 環境推進委員会の開催
- ③ 環境活動の取組状況の代表者への報告
- ④ 以下の実施
 - ・環境関連法規の点検
 - ・苦情受付処理
 - ・問題点の是正処置及び予防処置
 - ・環境への負荷及び環境への取組の自己チェック
- ⑤ 以下の承認
 - ・環境目標及び環境活動管理表
 - ・環境教育に関する文書及び記録
 - ・緊急時対応に関する文書及び記録
- ⑥ 以下の案の作成
 - ・環境目標及び環境活動計画
 - ・代表者による評価と見直しの結果記録
 - ・環境活動レポート

環境推進委員会事務局

- ① 環境推進委員会の事務局
- ② 環境管理責任者の補佐業務
- ③ 環境関連法規等のチェック表の作成
- ④ 環境に関する地域住民からの苦情の窓口
- ⑤ 環境関連文書・記録の保管と廃棄

環境目標取組推進者

- ① 自部門の環境活動実施計画の作成と実施支援
- ② 自部門の実施するための手順書の作成・実施支援
- ③ 部下に対して取り組みの指示および周知と環境教育の推進支援
- ④ 環境推進委員会への出席
- ⑤ 環境活動実施計画の進捗管理支援

環境目標取組責任者

- ① 自部門の環境活動実施計画の作成と実施
- ② 自部門の実施するための手順書の作成
- ③ 部下に対して取り組みの指示および周知と環境教育の推進
- ④ 環境推進委員会への出席
- ⑤ 環境活動実施計画の進捗管理

環境内部コミュニケーション

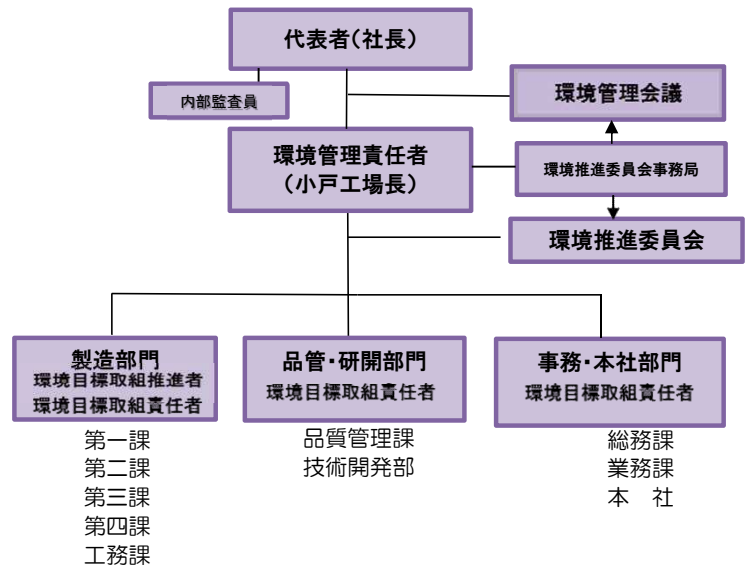
- ① 環境管理会議
 - a) 代表者・環境管理責任者・製造部長・事務局で構成し、年2回（4月・10月）およびその他必要に応じて随時、代表者が召集する。
 - b) 環境方針および環境目標を含む環境経営システムの改善・見直しおよび変更の必要性を評価について審議する。
- ② 環境推進委員会
 - a) 環境管理責任者・部長・環境目標取組推進者・環境目標取組責任者および環境管理責任者が必要と認めた者で構成し、月1回環境管理責任者が召集する。
 - b) 環境活動計画の進捗管理および環境に関する問題事項を審議・情報交換し意思疎通を図る。
 - c) 環境目標取組責任者は、環境推進委員会の内容について部下に周知する。

■ 対象とする活動

ベントナイト、酸性白土、粘土鉱物を原料とする吸着剤などの製造・販売に関する全ての活動を対象とする。

環境推進組織図

黒崎白土工業株式会社 本社および小戸工場の当社全体とする。



内部監査員

- ① 内部監査の計画・実施
- ② 内部監査での是正措置・予防措置要求の発行
- ③ 内部監査での是正、予防処置内容確認
- ④ 内部監査結果の報告

4. 環境目標及びその実績

■ 目標

環境目標項目	基準年度 (27年度) 総製品出荷量 48,461.4 t	環境目標値			
		28年度	29年度	30年度	31年度
電気使用量の削減 (kwh/総製品出荷量 t・年)	118.9	△0.1% 118.8	△0.2% 118.7	(基準年度) 121.5	△0.1% 121.4
化石燃料使用量の削減 (MJ/総製品出荷量 t・年)	2,216.5	△0.1% 2,214.3	△0.2% 2,212.1	△0.3% 2,209.9	△0.4% 2,207.6
二酸化炭素排出量の削減 (kg-CO ₂ /総製品出荷量 t・年)	218.3	△0.1% 218.1	△0.2% 217.9	△0.3% 217.6	△0.4% 217.4
廃棄物排出量の削減 (kg・年)	1,064	△0.3% 1,061	△0.6% 1,058	△0.9% 1,054	△1.2% 1,051
総排水量の削減					
・上水 (ℓ/総製品出荷量 t・年)	20.8	△0.1% 20.8	△0.4% 20.7	△0.7% 20.7	△1% 20.6
・地下水 (ℓ/総製品出荷量 t・年)	14.14	14.13	14.11	14.10	14.08
コピー用紙使用量の削減 (枚・年(A4版換算))	73,625	△0.3% 73,404	△0.5% 73,257	△0.7% 73,110	△0.9% 72,962
環境配慮型の製品開発の推進 (点数・年)	130	130	130	130	160
生物多様性の推進(採掘所緑化) (㎡・年 累積)	16,766	+2% 17,101	+4% 17,437	+6% 17,772	+8% 18,107

注) 1. 「電力使用量の削減」、「化石燃料使用量の削減」、「二酸化炭素排出量の削減」及び「総排水量の削減」の環境目標については、当社における総製品出荷量当たりの原単位としました。

2. 二酸化炭素排出量の削減では、購入電力の二酸化炭素実排出係数0.545kg-CO₂/kwh
(東北電力㈱ 2016年度実排出係数)を用いて算定しています。

3. 「環境配慮型の製品開発の推進」は現在、凝集補助剤の開発及び新たな製品の企画・調査を対象としており、各開発段階に置ける評価点を次のようにしています。

ステップ1 製品企画、調査・・・30点

ステップ2 製品研究開発、設計・・・60点

ステップ3 試作品製造、改良・・・80点

ステップ4 上市、量産・・・100点

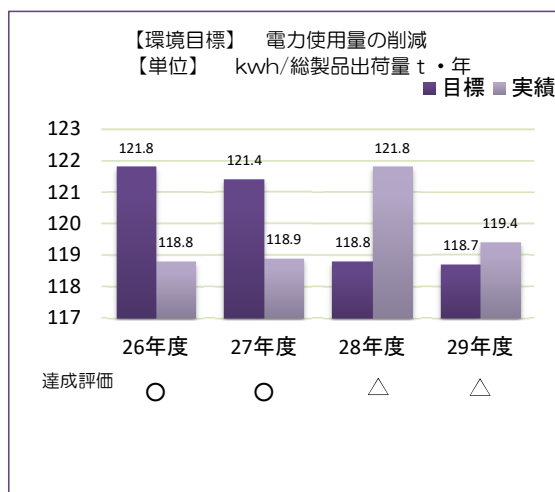
4. 「河川水」の使用はありますが、主に消雪に使用している為、監視項目とし、目標設定をしておりません。

■実績

平成29年度 実績

環境目標項目		基準年度 (27年度) 総製品出荷量 48,461.4 t	目標	実績 (29年度) 総製品出荷量 53,307.9 t	達成評価
電気使用量の削減 (kwh/総製品出荷量 t・年)		118.9	△0.2% 118.7	+0.4% 119.4	△
化石燃料使用量の削減 (MJ/総製品出荷量 t・年)		2,216.5	△0.2% 2,212.1	△3.5% 2,139.7	○
二酸化炭素排出量の削減 (kg-CO ₂ /総製品出荷量 t・年)		218.3	△0.2% 217.9	△2.3% 213.3	○
二酸化炭素実排出量 (kg-CO ₂ /年)		10,579,760.2		11,368,525.1	
廃棄物排出量の削減 (kg・年)		1,064	△0.6% 1,058	△17.3% 880.0	○
総排水量の削減	・上水 (ℓ/総製品出荷量 t・年)	20.8	△0.4% 20.7	△0.5% 20.7	○
	・地下水 (ℓ/総製品出荷量 t・年)	14.14	△0.2% 14.11	+5.8% 14.96	△
コピー用紙使用量の削減 (枚・年(A4版換算))		73,625	△0.5% 73,257	+3.9% 76,500	×
環境配慮型の製品開発の推進 (点数・年)		130	130	130	○
生物多様性の推進(採掘所緑化) (㎡・年 累積)		16,766	+4% 17,437	+16.6% 19,546	○

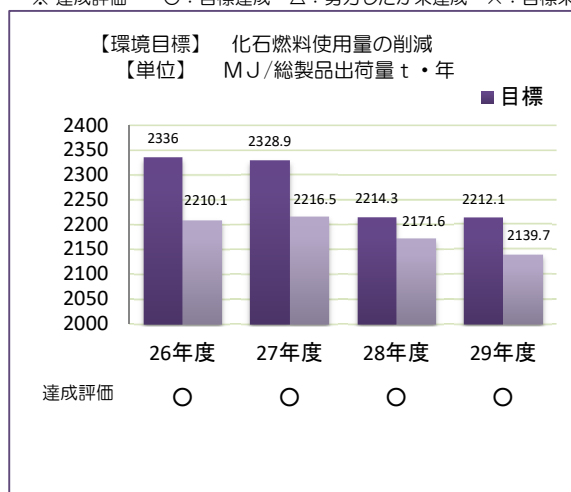
(注) 二酸化炭素排出係数は、2016年 東北電力実排出係数 0.545 kg-CO₂/kwhを使用しています。



	26年度	27年度	28年度	29年度
目標	△1.1%	△1.4%	△0.1%	△0.2%
	121.8	121.4	118.8	118.7
実績	△3.6%	△3.5%	+2.4%	+0.4%
	118.8	118.9	121.8	119.4

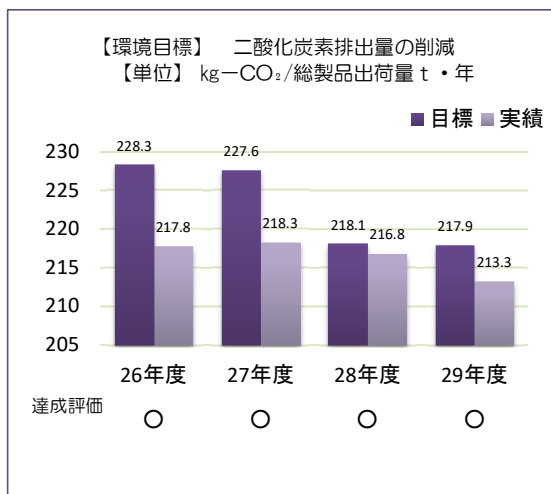
●製造工程で新設備の導入により、電力使用量が増え原単位の上昇となりました。

※ 達成評価 ○：目標達成 △：努力したが未達成 ×：目標未達成



	26年度	27年度	28年度	29年度
目標	△1.1%	△1.4%	△1.1%	△0.2%
	2,336.0	2,328.9	2,214.3	2,212.1
実績	△6.4%	△6.5%	△2.0%	△3.5%
	2,210.1	2,216.5	2,171.6	2,139.7

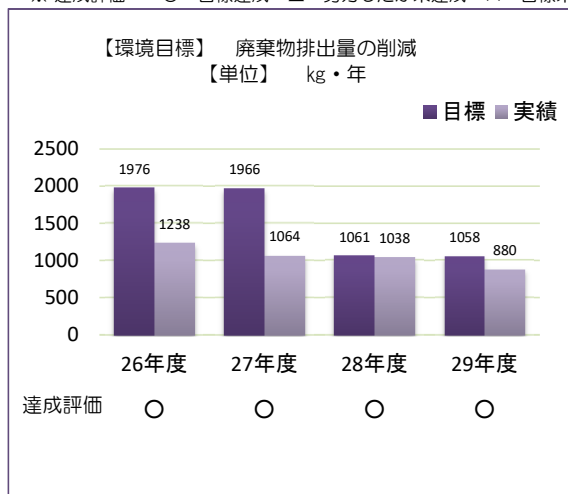
●乾燥炉の効率的な操作を行うことで、重油の使用量を抑え、原単位を削減しました。



	26年度	27年度	28年度	29年度
目標	△1.1%	△1.4%	△0.1%	△0.2%
	228.3	227.6	218.1	217.9
実績	△2.7%	△5.5%	△0.7%	△2.3%
	217.8	218.3	216.8	213.3

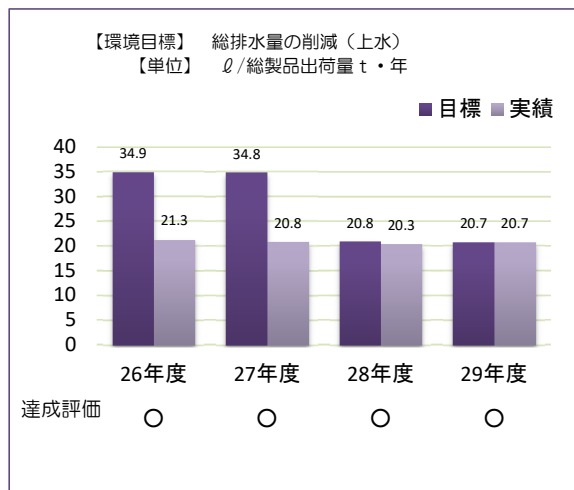
- 二酸化炭素排出係数を 東北電力㈱2016年度実排出係数とし、4か年分を変更しました。目標値は達成しました。

※ 達成評価 ○：目標達成 △：努力したが未達成 ×：目標未達成



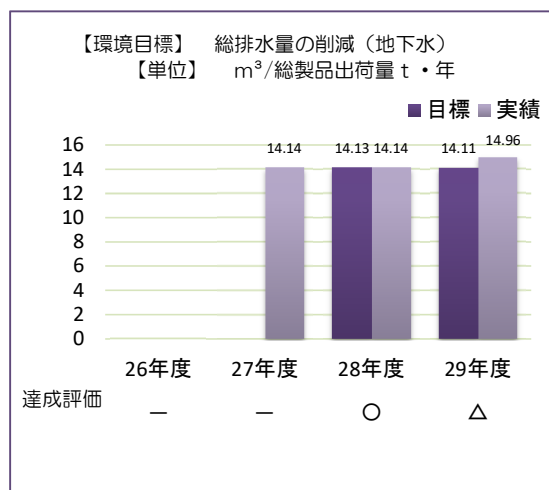
	26年度	27年度	28年度	29年度
目標	△1.5%	△2.0%	△0.3%	△0.6%
	1,976	1,966	1,061	1,058
実績	△38.3%	△47.0%	△2.4%	△17.3%
	1,238	1,064	1,038	880

- 昨年より継続して部署別で廃棄物排出量削減目標値を掲げ、活動を行うことで、削減管理意識が一層向上し目標を達成しました。



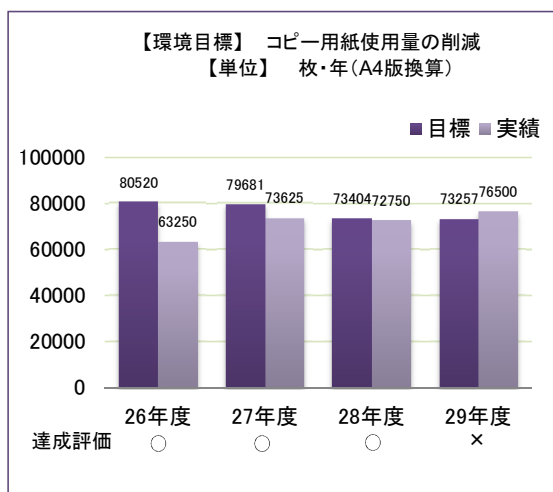
	26年度	27年度	28年度	29年度
目標	△1.6%	△2.0%	△0.1%	△0.4%
	34.9	34.8	20.8	20.7
実績	△40.0%	△41.4%	△2.4%	△0.5%
	21.3	20.8	20.3	20.7

- 冬期間は、凍結防止対応で例年以上に使用しましたが、皆で節水に取組み、目標を達成しました。



	26年度	27年度	28年度	29年度
目標	—	—	△0.1%	△0.2%
	—	—	14.13	14.11
実績	—	—	△2.6%	+5.8%
	—	14,140	14,14	14,960

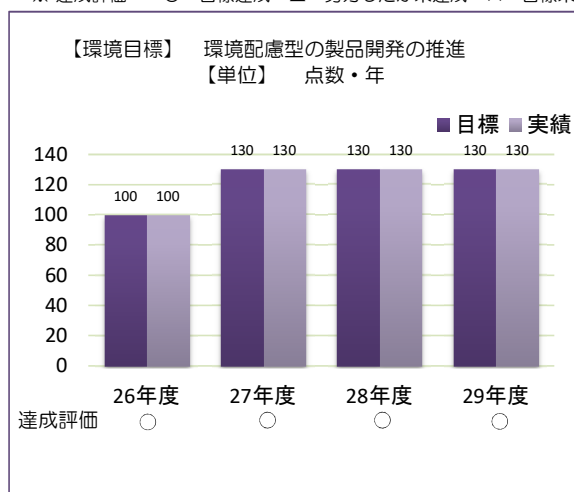
- 冬期間は凍結防止対応で例年以上に使用した為、目標を達成できませんでした。



	26年度	27年度	28年度	29年度
目標	△4.0%	△5.0%	△0.3%	△0.5%
	80,520	79,681	73,404	73,257
実績	△24.6%	△12.2%	△1.2%	+3.9%
	63,250	73,625	72,750	76,500

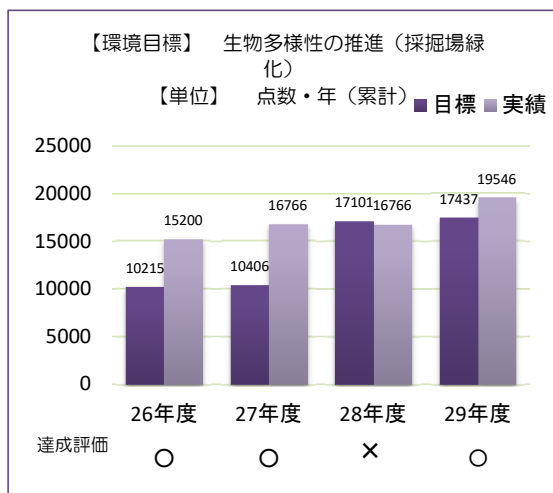
- 書類のペーパーレス化を進めてきましたが、印刷物増加により目標を達できませんでした。

※ 達成評価 ○：目標達成 △：努力したが未達成 ×：目標未達成



	26年度	27年度	28年度	29年度
目標	—	—	—	—
	100	130	130	130
実績	—	—	—	—
	100	130	130	130

- 進めていた新製品の上市が成され、引続き、酸性白土の特徴を生かした製品開発を進めています。



	26年度	27年度	28年度	29年度
目標	+7%	+9%	+2%	+4%
	10,215	10,406	17,101	17,437
実績	+59.2%	+75.6%	0.0%	+16.6%
	15,200	16,766	16,766	19,546

- 造成工事完了の遅れで28年度に実施ができなかった採掘所緑化事業と本年の採掘所緑化事業を併せて実施しました。

5. 環境活動計画と取り組み結果の評価、次年度の取り組み内容

環境活動計画については、次年度も継続・一部見直し実施して取り組みを行います。

環境活動計画		実績評価			次年度の 取り組み
		工 場 (製 造)	品 管 研 開	事 務 本 社	
二酸化炭素の削減					
電力使用量の削減					
①休業日は、動力盤の元ブレーカーを切り、待機電力を減少させる。	100	-	-	継続	
②自然採光を取り入れる事により、不要な照明を消灯する。	100	100	100	継続	
③照明器具、小型モーターの更新時は省エネタイプを採用する。	100	100	100	継続	
④エアー配管からの漏れに注意を払う。	100	-	-	継続	
⑤機械設備の異音や発熱に日頃から注意を払い、電動機の過負荷をおさえる。	100	-	-	継続	
⑥工場・管理室・事務所等の不要な照明は消灯する。	100	100	100	継続	
⑦管理室・事務所等の冷房室温管理（冷房28℃・暖房20℃）を徹底する。	100	98	100	継続	
	100	96	100		
化石燃料使用量の削減					
①品質規格内での製造を心掛け、過乾燥にならないようにする。	100	-	-	継続	
②乾燥装置の放熱を防ぐと同時に冷空気の吸い込みをなくする。	100	-	-	継続	
③重機、車両のアイドリングは最短に抑える。	100	-	-	継続	
④管理室・事務所等の暖房室温管理（冬20℃）を徹底する。	100	100	100	継続	
⑤乾燥設備において、廃熱回収の設備を導入し燃費向上を図る。	100	-	-	継続	
⑥給湯器の給湯温度管理（30℃）を徹底する。（夏場は極力温水を使用しない）	100	100	100	継続	
⑦キルン投入前の原土水分管理を徹底する。	100	-	-	継続	
	100	-	-		
廃棄物排出量の削減					
①一般廃棄物の分別と新聞雑誌類の再資源化を徹底する。	100	100	100	継続	
②必要以上のカタログ類は入手しない。	100	100	100	継続	
③連絡事項は回覧方式を多く取り入れる。	100	100	100	継続	
④物品資材は適正数量の購入を常に考え、不要な廃棄物を削減する。	100	100	100	継続	
⑤産業廃棄物の再資源化への分別を徹底する。	100	100	100	継続	
	100	100	100		
総排水量の削減					
上水使用量の削減					
①水道蛇口の節水コマの導入を進め、水の使用量を抑える。	100	7.5	100	継続	
②水道の無駄な出しっ放しを極力避け、バケツ利用で節水する。	100	96	100	継続	
③水道配管からの漏洩を点検する。	100	100	100	継続	
	100	100	100		
地下水使用量の削減					
①地下水の不要な使用は控え、使用量を抑える。	-	-	-	継続	
②一カ月に一度、給水設備を点検する。	100	-	-	継続	
	-	-	-		
コピー用紙使用量の削減					
①使用裏紙の再使用と両面コピーで紙の使用量を削減する。	-	100	100	継続	
②P C印刷は両面・印刷プレビューの確認で、ミスプリント紙を削減する。	-	93	95	継続	
③コピー機の縮小機能を最大限利用して、紙の使用を削減する。	-	100	100	継続	
	-	100	100		
グリーン購入の推進					
①グリーン商品リストを備える。	-	100	100	継続	
②インターネットで随時情報を得て購入の支援をする。	-	100	100	継続	
	-	100	100		
化学物質使用量					
①保有試薬管理帳を備え、化学物質の保有量等を管理する。	100	100	-	継続	
②化学物質の購入・使用・保管管理のルール化による徹底管理を行う。	100	100	-	継続	
	-	100	-		
	-	100	-		
環境配慮型の製品開発の推進					
①環境配慮型の製品開発のステップ向上に努める。	ステップ1 製品企画、調査・・・30点 ステップ2 製品研究開発、設計・・・60点 ステップ3 試作品製造、改良・・・80点 ステップ4 上市、量産・・・100点	-	130点	-	継続
		-	130点	-	
生物多様性の推進					
①採掘跡地の計画的な緑化を行う。	8.5	-	-	継続	
	100	-	-		
地域貢献活動の実施					
①県道・市道のクリーン活動を行う。	-	-	-	継続	
②花いっぱい活動を実施し、地域の集落内にプランターを設置する。。	100	100	100	継続	
	-	-	-		
	100	100	100		
社会貢献活動の実施					
①新発田市が主催する社会貢献活動へ率先して参加する。。	-	-	-	継続	
	100	100	100		

注) 実績評価欄は、四半期ごとに担当者が10点満点で評価した活動に対する評点の平均値。また、環境配慮型の製品開発の推進は、平均値ではなく年度の達成点数を記入する。

6. 環境関連法規等の遵守状況の確認・評価並びに違反、訴訟等の有無

当事業所が規制を受ける環境関連法規について、自社において遵守状況を点検した結果です。点検の結果、すべてを遵守していることを確認しました。

なお、関係行政当局よりの違反等の指摘は、過去9年間ありませんでした。また、訴訟等也没有ありません。

環境関連法規	主な要求事項	点検結果
フロン類の使用の合理化等及び管理の適正化に関する法律	点検の実施及び点検記録簿の保管	遵守
使用済自動車の再資源化等に関する法律	使用済自動車の引取業者に引渡、リサイクル費用負担	遵守
大気汚染防止法	ばい煙発生施設の届出、排出基準の遵守、ばい煙量・濃度の測定	遵守
水質汚濁防止法	特定施設の届出、排水基準の遵守、排出水の汚染状態の測定	遵守
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	「一般廃棄物」：委託の基準の遵守 「産業廃棄物」：保管基準の遵守、委託基準の遵守、マニフェスト管理および年間状況報告	遵守
エネルギーの使用の合理化等に関する法律	第一種エネルギー管理指定工場の届出、エネルギー使用状況の届出、エネルギー管理者の選任及び届出、中長期的な計画の作成	遵守
地球温暖化対策の推進に関する法律	特定事業者としての温室効果ガス排出量の報告、排出抑制計画の策定	遵守
消防法	防火管理者の選任、危険物貯蔵所の設置許可、消防用設備の設置届出、点検の実施及び点検記録簿の保管	遵守
浄化槽法	浄化槽の保守点検・清掃、放流水検査の実施	遵守
毒物及び劇物取締法	毒劇物の表示、施錠できる施設での保管	遵守
PRTR法	第1種特定化学物質の排出量、移動量の届出、適正管理	遵守
特定工場における公害防止組織の整備に関する法律	公害防止管理者の選任	遵守
工場立地法	敷地面積9千㎡以上、建物面積3千㎡以上は届出	遵守
労働安全衛生法	安全管理者等の選任義務、安全衛生委員会の設置義務、作業環境測定の実施・結果の記録、化学物質のリスクアセスメントの実施	遵守
新潟県産業廃棄物等の適正な処理の促進に関する条例	産業廃棄物を処分委託する場合、委託先の処理施設稼働状況の確認・記録・記録の保存等の義務	遵守
新潟県生活環境の保全等に関する条例	騒音振動の規制	遵守
新発田市公害防止条例	公害防止協定の締結	遵守
新発田市水道水源保護条例	協定の締結、水質検査の実施と結果の報告 等	遵守

7. 環境活動の紹介

【地域貢献活動】

- ・クリーン活動（16名参加）

今年も継続して、8月に工場周辺道路のゴミ拾いを行いました。

毎年行っている中で、廃棄されているゴミの量が少なくなってきたと感じました。



幹線道路沿いのゴミ拾いを行いました。



- ・花いっぱい活動

今年も継続して工場・周辺の集落内で花いっぱい活動を行いました。

今年の夏は例年になく天候不順でちゃんと育つか心配しましたが、すべて立派に育ちました。

朝、夕の水まきは、全従業員が当番制で行いました。



植込み完了



秋まで元気に育ちました。

【社会貢献活動】

- ・新発田市主催の大クリーン作戦へ参加

工場がある地元集落で開催された大クリーン作戦へ参加しました。

その他の従業員は居住地で開催されたクリーン作戦へ参加しました。



工場から12名が参加しました



総勢100名以上の方が参加して実施されました

【環境教育】

・緊急事態対応教育（白濁水流出）

梅雨シーズンに備え、当工場で使用する原料から白濁水が流出した時の対応手順について確認しました。



・化学物質教育（化学物質のリスクアセスメントの実施）

環境教育として、当工場で使用する化学物資のリスクアセスメントを行いました。



【産業廃棄物処理施設現地確認】

産業廃棄物処理施設の現地確認を行いました。今年は新入社員を含む9名が参加しました。

また、処理の過程に問題は無く、参加した方達はそれぞれ各部署で報告を行いました。



小柳産業(株) 再資源化工場 様



新発田広域エコパーク 様

【緊急事態対応訓練】

・白濁排水・外部通報対応訓練

訓練は、白濁水が流出し、外部の通報者より電話連絡があった場合を想定して行いました。（7月実施、7部門参加）
手順書の確認、初期対応（通報対応・報告）、外部者からの通報に的確に対応することを目的としました。



・重油漏洩訓練（全体訓練）

重油の漏洩を想定した全体訓練を実施しました。

手順書の確認、初期対応（連絡・通報・役割行動）と河川への流出の防止方法を習得することを目的として行いました。



重油漏洩の連絡を受けて工場排水最終ゲート閉鎖



側溝への流出に備え重油回収用組立水槽設置

・灯油漏洩訓練 軽油漏洩訓練（使用する部署ごとに実施）

工場内で使用する化石燃料が漏洩した想定で個別訓練を実施しました。

手順書の確認、初期対応（連絡・通報・役割行動）の習得を目的として行いました。



暖房用として使用している灯油がポリタンクから漏洩した想定で訓練を行いました。



工場で使用している重機へ給油中に軽油が漏洩した想定で訓練を行いました。

8. 代表者による全体評価と見直しの結果

(1) 代表者による指示事項

点 検 項 目		見直しによる指示事項	見 直 し の 必 要 性
環 境 方 針		特になし	☐ 有 ☒ 無
環 境 目 標		電気使用量の削減目標の見直しを実施する。	☒ 有 ☐ 無
環 境 活 動 計 画		今まで実施していた「地下水の削減」「地域貢献活動」「社会貢献活動」を環境活動計画へ記載しました。	☒ 有 ☐ 無
経営システムその他	法 令 遵 守	特になし	☐ 有 ☒ 無
	苦情等対応	特になし	☐ 有 ☒ 無
	是正予防措置	- 電気の使用量について、使用電力量の増加により是正措置を行いました。 30年度の電気の使用量について環境目標の見直しを行いました。 - 基準年度から使用量増加分を加味して環境目標値の見直しを行う。 - 地下水使用量について、地下水使用量の増加により予防措置を行いました。 - 今後も地下水の使用量を分析し、適切な使用・管理に取り組むこと。 - コピー用紙使用量について、コピー用紙使用量の増加により予防措置を行いました。 - 基準年度から増加した印刷物を分析し、ペーパーレス化を促進すること。	☒ 有 ☐ 無
	そ の 他	新潟県が進める「カーボン・オフセット制度」へ参加を検討する。	☒ 有 ☐ 無

(2) 代表者による総評

平成20年11月にスタートしたエコ活動も早いもので9年を経過致しました。取組を始めたころ入社した社員もエコ活動の大切さを理解し、取組の中心となって活動しています。

本年度も全員参加でエコ活動へ取組みましたが、夏季の天候不順や冬季の大雪、異常低温等の影響もあり環境目標に向けた取組が大変な一年となりました。

結果として、環境目標は「電力使用量の削減」「地下水使用量の削減」が未達成となりました。また、「コピー用紙使用量の削減」についても管理部門以外の印刷物の増加により未達成となりました。次年度の「電力使用量の削減」については環境目標の見直しを図り、「地下水使用量の削減」、「コピー用紙使用量の削減」については、使用内容を分析し、削減に努めるよう指示いたしました。

環境保全に向けた取組として、前年に引き続き、工場脇 河川法面の崩落防止を目的として、河川の改修工事を実施いたしました。また、環境への負荷の低減に向けた取組として、生産設備の入替、資材・製品倉庫の新設、燃焼炉の改修を行いました。働く従業員の作業環境改善に向けた取組として、工場内の段差を無くしました。このことで、工場内が明るくなり作業効率もアップしました。

次年度についても、環境方針で基本理念として掲げる「環境への負荷低減に継続的に取り組む」「環境との調和を図り積極的な環境保全に努める」を中心に活動を行い、社員一人一人が環境保全の意識向上に努め、全員参加の活動を継続実施し、成果に結び付けたいと考えております。